

# 関東在住の若者の進路選択と地域移動 —JELS インタビュー調査—

中島ゆり（お茶の水女子大学）

## 1. はじめに

進学と就職時の地域移動についての多くの研究蓄積が指し示してきたのは、地域移動が（男性の場合）地位の向上に結びついてきたということである。しかし、人々が自らのキャリアを考える際に、どのように地域移動の可能性を意識し、移動するか否かを決定し、実際に行動に移すのかについて、人々の主観に着目した研究は少ない。

地域移動をするかしないか、その可能性に直面するか否かは、当然、育った地域の機会の差に影響を受ける（たとえば石黒ほか 2012）が、現在の若者、とくに相対的に学歴の低い若者は、地方にても関東圏にしても、ローカルな場にとどまる傾向にあることが指摘されている（たとえば中村 2010）。これらの先行研究は、人々が地域移動をするか否かには文化的な影響があることを示唆している。

本研究は、地域移動に対する若者の認識（感覚）が地域、社会階層、ジェンダーといった社会文化的なダイナミクスの中で、いかに形成されているのか、それが、どのようにキャリア形成につながっているのかを考察するものである。

本報告は、お茶の水女子大学で実施している「青少年期から成人期への移行についての追跡的研究」(Japan Education Longitudinal Study: 以下、JELS) の一環として 2014 年 3 月から実施しているインタビュー調査をもとにしている。

JELS は 2003～2013 年度、関東地方 A エリアおよび東北地方 C エリアにおいて、3 年おきに小中高校生を対象とした質問紙調査を実施してきた。質問紙調査は結果の関連性を明らかにすることはできるが、その結果に至るまでの具体的な進路選択過程については明らかにすることが難しい。本インタビュー調査はこの質問紙調査の欠点を補うべく、現在も継続的に実施している。

本報告では、関東在住の若者を対象に、キャリア形成上、地域移動の可能性をどのように考え、実際のキャリアを決定してきたかを見ていく。

## 2. JELS インタビューの概要

JELS インタビュー調査の協力者は、2012 年度に実施した 2003/2004 年度の高校卒業者に対する追跡調査（郵送）（以下、卒業生現況調査）に協力してくれた者に対し、2013 年 12 月にインタビューへの協力依頼状を再度郵送して募った。2014 年 3～4 月にかけてインタビューを実

施したが、このときの協力者は、1) 関東圏に在住し、2) 四年制大学に進学したあと長期的に一つの正規の職に就いていない若者に限定している。本報告は、このときに得た 14 人のインタビューデータにもとづいている。（なお、2014 年度には関東圏以外に在住している者、四年制大学進学者で長く一つの正規の職に就いている者も含めてインタビューを依頼し実施している。）

インタビュー協力者は A エリアでは 2003 年度、C エリアでは 2004 年度に高校を卒業しており、2014 年時に満 27～29 歳の若者である。

協力者の詳細は以下の表の通りであった。

名前 (仮名)	性別	出身 エリア	高校	高校卒業後の進路
佐藤	女	A	Aa 高校	就職→短大進学
田中	女	A	Aa 高校	短大進学
山田	女	A	Aa 高校	四大進学
佐々木	女	A	Aa 高校	四大進学
松本	女	A	Aa 高校	アルバイト
吉田	男	A	Aa 高校	専門学校進学
鈴木	女	A	Ab 高校	四大進学
高橋	女	A	Ac 高校	専門学校進学
山本	男	A	Ad 高校	四大進学→大学院中退
中村	男	A	Ae 高校	アルバイト
小林	女	A	Ae 高校	専門学校進学
伊藤	女	C	Ca 高校	四大進学→就職→大学院進学
渡辺	男	C	Cb 高校	四大進学
加藤	女	C	Cc 高校	専門学校進学→四大編入

## 3. 地域移動についての感覚

地域移動に対する若者の感覚は A エリアと C エリアでは異なっている。これはまず進学機会の差に由来するものと理解できる。

C エリア出身の加藤さん (CcF10) は保育士をめざし、C エリアを離れて仙台の専門学校に 3 年通ったあと、東京の大学に 4 年次編入して幼稚園教諭の 1 種免許を取得した。

〔お家の方は何かおっしゃいました？お家離れることに。〕家を離れること？ えー。さみしいけど、何か、保育の専門学校が、どちらにしろ、あの、家から通える範囲でなかったですね。もう潰れちゃって、C とかになくて。でも何か、みんな結構 1 回は地元を離れて、専門、んと、何ですか、進学とかだと離れちゃって。まあ、戻ってくる人は戻ってくるけど、離れる感じだったので。何か。で、●●市 [注:C 市の隣市] とか嫌だったんですよ。

だから、仙台とか東京とか。(加藤 CcF10)

同様にCエリア出身の渡辺さん(CbM06)も、進学する大学が国立であることにはこだわったが、進学する地域についてのこだわりは少ない。

大学も工学部を選んでて。で、そこの情報工学っていう、まあ、コンピューター系の学科ですかね。で、まあ、もうコンピューター系の学科に行きたくて。で、調べて。で、自分の成績で行けそうな国立の大学を選んで、●●大学【注：関東の国立大学】っていうところですかね。

(中略)

[大学受験のときには、国立大学にこだわりましたか。] ああ、こだわりましたね。そこは。まあ、家庭の事情を考えて。まあ一応、滑り止めも、親は受けさせてくれましたけどね。ただ、浪人とかは、してくれない雰囲気だったので。まあ合格できて良かったですね。(渡辺 CbM06)

これに対し、Aエリア出身者は地域移動の可能性をCエリア出身者よりも当然のこととしては受け止めていない。田中さん(AaF04)は、東京にあるが、実家から通うのが難しい距離にある会社の内定を断り、短大卒業ぎりぎりまで就職が決まらなかった。

何か、一応、その、何ですかね、就職をサポートしてくれる、何とか課っていうのが、その学校内であったので、そこでお願いをして。ほんとは1回、夏には決まったところがあったんですけど、すごく遠くって。何か、そうですね。とにかく遠いところ、東京のどっか、何か、うん、そっちの方だったので、もうそこは蹴ってしまって。その後いろいろゴチャゴチャあったから、結局、そうですね。もう3月までは【決まらなかつた】。

(田中 AaF04)

田中さんのように、高校や大学卒業後の進路選択に多様な可能性のある関東圏では、卒業後の進路をぎりぎりまで考えなくとも、どうにかなってしまう。山本さん(AdM07)もまた高校卒業後の進路がぎりぎりまで決まらなかつた。

その、高校を卒業する時に、あの、出席日数が足りなさすぎて、うん、ちょっと、このままじゃ危ないから補習をするっていう時に、何か、学校行くのめんどくさいから、働くっていう話を母親したら、何か、どうせすぐ辞めるから、資格だけ取つといた方がいいよって言われて、その、大学を1個だけ選んで、うん。で、そこだけ受けるから、落ちたら働くわ、みたいなこと言って、願書提出ギリギリの日に、あの、卒業予定証明書みたいな、あれをいただいて、そのまま送ってっていう感じでした。(山本 AdM07)

もちろん、関東に住んでいる者がすべて地域移

動を考えないわけではない。高橋さん(AcF03)は地元を「好き」、「帰ってくる場所」と位置づけながらも、地元を一度は離れたいと述べた。

地元の●●は、すごい好きなんですね。なんですけど、何か、住んでると、ずっとそこだけの知り合いで終わっちゃいそうな気がして。あとは何か、ちょっともったいないなと思っていて。

行ったら、多分行ったままになっちゃいそうな気がするんですけど。何かこう、帰ってくる場所が●●だったらいかなっていうのがあるので。町は好きなので。(高橋 AcF03)

高橋さんの事例に対し、先に事例をとりあげた東京での就職を断った田中さんは、自信のなさから長期的な仕事に就くことを恐れ、2、3ヶ月ごとに変わる派遣で暮らしている。地域移動をキャリアの中に位置づけられるかどうかは、自分に対する自信とも関係しているように見える。

あとまあ、基本的に、その、ちっちゃいときから、親にこうしなさい、ああしなさいとか、何か、褒めてもらってないっていうか、自分はできないって思ってるの。どうしたらいいんだろう。会社の中の評価はすごく良かったり、すごく、まあ、辞めたいって言ったときも止めてくれたりするんですけど、自分の中の評価は低いので。まあ、できてなかったとか、さっきお客様に何かひどい対応を取っちゃったなとか、そういうので悩み始める、もう。はい。何か、そうですね。休みがちになっちゃって。(田中 AaF04)

#### 4. 考察

地域移動は、地域の機会の差以外に、これまでの自らの地域移動の経験、自分への自身、ジェンダー、親や親戚の地域移動の経験に左右されているようである。

注意しなければならないのは、関東圏にすでに移動したCエリアの出身者は、移動していないAエリア出身者より、学歴や社会階層が高い可能性があることである。これについては今後、Cエリア在留者との比較をする必要があろう。

※本研究は科学研究費補助金（基盤研究(B)24330233「青少年期から成人期への移行についての追跡的研究（第4次）—就業と家族形成」（平成24～26年度）（研究代表：耳塚寛明）の成果の一部である。

#### 参考文献（一部）

- 石黒格ほか, 2012, 『「東京」に出る若者たち』ミネルヴァ書房。  
 中村高康, 2010, 「都市部高校生の進路選択とローカリズム」中村高康編『進路選択の過程と構造』ミネルヴァ書房, pp. 231-252.  
 吉川徹, 2001, 『学歴社会のローカル・トラック—地方からの大学進学』世界思想社。